平成30年8月17日発行

JCHO北海道病院
夏祭り
平成30年7月21日(土)

No.
18

JCHO（ジェイコー）北海道病院だより

病院理念

地域の人々を中心にした
質の高い医療・介護を提供し、
地域から信頼される病院に
なります。

基本方針

1.一人一人の権利を尊重し、人間愛を基調とした医療・介護を行います。
2.安全を第一に説明と同意に基づく医療・介護を行います。
3.地域との連携を推進し、求められる医療・介護を行います。
4.地域の健康増進をめざし、保健予防活動を推進します。
5.地域医療機能の推進をもって医療・医学の発展に貢献します。

Team MBD（Management of Benzodiazepines dependence）の結成

病院長　古家　乾

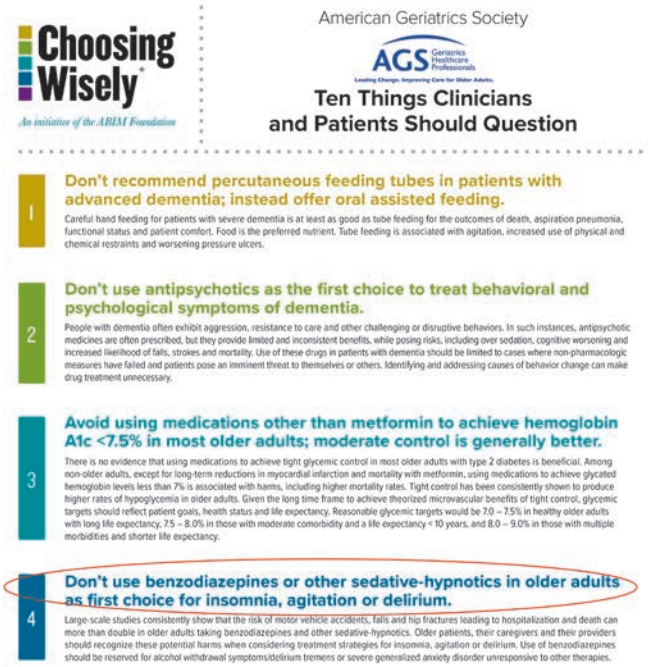
この度、当院の医療の質改善目的にベンゾジアゼピン受容体作動薬の依存に対処するチームを結成し、病院職員が一丸となって取り組むことにしましたので、簡単に経緯をご紹介させていただきます。

2017年3月にPMDAからの「医薬品適正使用のお願いーベンゾジアゼピン受容体作動薬の依存性についてー」が発行（No.11）されました。また2018年度の診療報酬改定では、3種類以上の抗不安薬、3種類以上の睡眠薬、3種類以上の抗うつ薬、3種類以上の向精神薬又は4種類以上の不安薬および睡眠薬の投与を行った場合の処方料と処方箋料の減算が強化され、ベンゾジアゼピン受容体作動薬である抗不安薬・睡眠薬を1年以上連続して同一の用法・容量で処方している場合、除外規定はあるものの処方料・処方箋料の減算が新設されました。一方、向精神薬又はベンゾジアゼピン受容体作動薬である抗不安薬・睡眠薬を1年以上同一用法・容量で継続処方していた患者であって、直近の抗不安薬等の種類数又は1日あたりの容量が減少したものについて、薬剤師又は看護職員と協同して症状の変化等の確認を行っている場合の連携加算（処方料および処方箋料）が新設されました。いわゆるポリファーマシーや重複処方でもこの系統の薬は問題になっており、欧米に比較して日本で処方量が多いため問題提起されています。

当院には附属の介護老人保健施設があり、入所判定の資料を見る機会があります。その時に90才近い入所希望の方に、睡眠薬が3剤処方されていたのを見つけたのが、このTeamを結成する契機でした。本年5月29日に医師3名を含む多職種（薬剤師、看護師、医療安全担当者、作業療法士、医事課長）計12名のTeam MBDのキックオフミーティングを開催しました。7月18日には、全職種対象の医療安全講習会にて、現状の問題点や今後の活動方針を共有することが出来ました。過去には、平成24年3月～平成25年3月までの東京女子医大でのベンゾジアゼピン系薬の適性使用の取り組みが報告されています。厚労省の高齢者医薬品適性使用検討会などでも議論が進んでいます。

欧米では、2010年にN Eng J MedにBrodyらが各医学界に対して、患者の利益を損なう事なく医療費が節約できるTop 5のリストを作成する事を提案しました。2011年-2012年にかけてChoosing Wisely（賢明な選択）キャンペーンが始まり、2013年には米国老年医学会がそれに答えて5項目の提案を行い、その4番目に「高齢者の不眠、不穏、譫妄に対して第1選択薬としてベンゾジアゼピンやその他の鎮静剤や睡眠剤はしないように」と謳っています。医療行為にはすべて利点と欠点があり、リスクが利益を上回る場合は控えましょうということが運動の趣旨です。もちろんこの薬が必要な方もいらっしゃいますので、充分かかりつけ医の先生とご相談いただければと思います。その他にも各種学会の提案がありますので、ご興味のある方はChoosing Wisely HP (http://www.choosingwisely.org)をご参照ください。患者さん向けの説明（英文ですが）もあり、スマートフォン用のアプリ（iPhone/Android）もダウンロードできます。

当院のTeam MBD活動にご理解いただきますようお願い致します。



JCHO北海道病院における総合支援センター

General Support Center:GSC

総合支援室　沓澤 佳代子

H30年度診療報酬の改定が行われ、重点項目のひとつとして「入退院支援の推進」があります。当院も4月1日から「総合支援センター（GSC）」を立ち上げましたので、活動の内容と今後の目標についてお伝えしたいと思います。

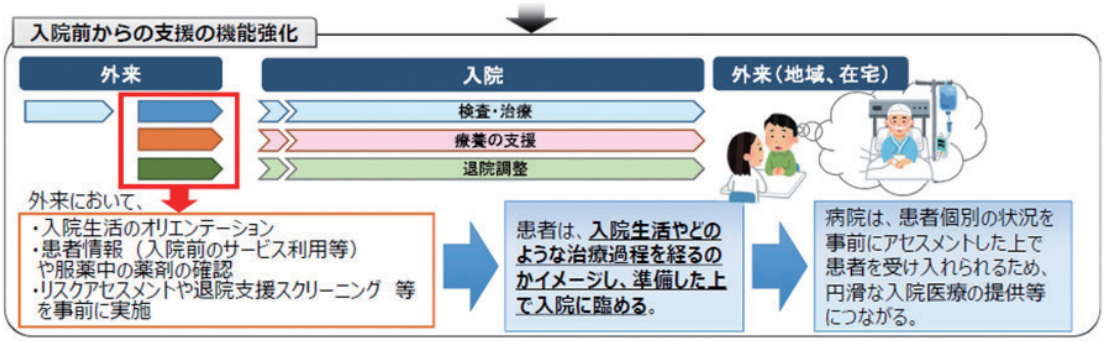
GSCの機能

入院説明や入院後の検査・治療・クリニカルパスの説明、合併症評価のための他科診療など、他職種が連携し、外来の段階で段取りよく進め、医療相談、医療福祉相談、入院前から退院までの患者・家族とのプランの共有を目標にしています。

1. 退院調整が必要と判断されるハイリスク患者の予約入院時の早期介入
2. 早期検査・治療・緊急入院が必要なハイリスク患者の治療につなげる

入院前からの患者・家族支援

※厚生労働省　北海道厚生局資料



GSC活動内容

①薬剤師介入　　入院前に中止薬指導・内服薬の把握が可能となっています。
　保険薬局照会:保険薬局確認支援
　抗凝固剤中止の支援

②周術期口腔機能管理:かかりつけ歯科医につなげ、口腔ケア評価を行い誤嚥性肺炎への予防効果を期待しています。

③栄養状態のアセスメント:NSTスクリーニング評価　予約入院時に早期介入
　外来での栄養指導

④その他支援
・本人が配偶者の主介護者の場合、治療入院中の配偶者の短期入所調整
・要介護認定申請の手続き調整
・ケアマネジャーとの連携により入院予約の時点で情報提供を行うことで、入院後に「介護支援等連携指導料」の算定につなげています。

チームの構成メンバーは、下記の通りです。
(1) 地域ケアマネジメントセンター長　数井副院長
(2) 認定看護師　　2名　　緩和ケア　がん性疼痛看護
　　看護師　　2名
(3) 薬剤師
(4) 栄養管理士
(5) 医療社会事業専門員

認定看護師2名が配属され、外来でがんと診断された時からの早期介入により、様々な専門職と連携して支援することが可能です。さらに「がん相談」窓口での継続支援、「緩和ケアチーム」の紹介や、患者さん自身が情報を得られる「がんに関する患者図書室・サロン」の案内を行い、通院から入退院に至るまで支援を行うことができます。

JCHO北海道病院
第10回地域講演会

「がんの知識」

［2018.6.21中の島会館にて開催］

病院長　古家　乾

昨年度から開始したJCHO北海道病院地域講演会も今回で10回目になりました。

今回は「がんの知識」というタイトルでしたが、講演内容は、1.がんの疫学、2.がんの危険因子と予防、3.がん検診、4.アドバンス･ケア･プランニング（ACP:患者の意思決定支援計画）の4つについてお話しました。医療は、医療提供者（医療従事者）と医療受療者（患者さん）との協同作業ですが、上記の4点に関しては患者さんの知識や取り組みによって「がん」の結果が変わり、共同作業のうち患者さんの果たす役割が大きいからです。

医療保険はあくまでも病気になった時から使用できるものであり、健診･がん検診は対象になりません。しかし、それではこれからの超高齢化社会で持続可能な社会保障や国民皆保険を維持していくことは困難になります。健康寿命を延ばす為には危険因子を是正し発病を予防する事、未病（健康と病気の中間）のうちに改善（より健康に近づける）や治癒させることが重要になります。

日本人の死因のトップ5は、がん、心臓病、肺炎、脳卒中、老衰になります。

国立がんセンターの研究では、「禁煙」、「節酒」、「食生活」、「身体活動」、「適性体重の維持」の5つの生活習慣に気をつけた人はそうしなかった人に比べて、男性で43%、女性で37%、それぞれがんのリスクが低下すると報告しています。また感染（ピロリ菌、C型およびB型肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルスなど）も発癌リスクを上げる重要な因子です。これらに関しては、かかりつけ医の先生、専門医の先生にご相談ください。また最近では、日本人の糖尿病の死因のトップががんであることも注目を浴びています。がんとその他の生活習慣病に共通の危険因子が多いことがわかると思います。またがん検診だけでは中々死亡率が低下しないといわれています。それは、受診率が低い事と検診をうける人が、一部の人に偏っているからといわれています。是非、がん検診を受ける時は、あまり受けたがらない近所の方を誘って地域全体で検診を受けましょう。

厚労省は「人生の最終段階における医療･ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を2018年3月に11年ぶりに改定しました。また日本医師会が、「終末期医療―アドバンス･ケア･プランニング（ACP）から考える」と言う冊子を同年4月に発行しました。また今年度の診療報酬改定で、緩和医療の対象に心不全が追加されました。ACPとは、将来の医療やケアについて、患者さん本人の意思決定を基本とするプロセスのことです。患者さんの意思は状況によって変化しうるものであり、近しいご家族や医療･ケアチームと話し合いを繰り返してその都度意思を伝えておきます。また最終段階においてもし、ご自分の意思が表示出来ない状態になった時は、自分の意思を推定出来る方を前もって決めておくことになります。誕生日やどなたかをお見舞いに行った時など、折りに触れてご家族で、「自分はこうしたい、こうはされたくない」など話合う機会を設けることが第一歩になります。2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなると言われていますが、逆に言えば3人に2人はがん以外で亡くなることになります。がんや非がんを問わず、健康寿命の延伸の工夫とACPについて考える機会としての講演でした。

国際モダンホスピタルショー2018に参加して

事務部長　小野寺 正逸

7月11日から13日にかけて、東京ビッグサイトで開催された国際モダンホスピタルショー2018に参加してきました。

当院は2020年に電子カルテの更新を予定しており、その準備として早い時期から各部門との調整を図り、来年度には新システム導入に向けた入札を行いたいと考えています。また、今年度は電子カルテの準備以外にも、老健の介護システムの更新や健康管理センターのパックスの更新。また、若干施設整備関係ですが老健のナースコールシステムの更新など、所謂ICT関係の整備が控えています。

当院では今年に入って、既に電話回線を利用した「みえる通訳」の導入や、インターネット回線を利用して病院案内のコンテンツや、患者さん向けの啓蒙コンテンツを配信してもらう、コンテンツ配信システムなどの導入なども行ったところです。

院長以下7名が参加しました。私は今年初めて参加しましたが、キーワードは「統合化･集約化」と感じました。

電子カルテに関しては、患者の診療経過が一目で把握しやすいように、各診療情報を一つの画面(マトリックス)に集約させる統合型の作りにはなっていますが、診療支援を充実させるとなると、各部門システムの実データの集約が求められ、画像系をメインとしたベンダーが注目されているようでしたが、今年は文書管理機能に力を入れ、院内外で使用するすべての文書管理機能を持ち合わせ、レポートのレイアウトも各部門で編集しやすい環境を提供するベンダーも注目されたようです。

各部門システムのサーバを極力集約し、部門システムの導入費用と保守費用の削減を図り、診療支援と業務支援をバランス良く充実させたシステム構築に向けて進めていきたいと思いました。

一点残念だったのは、今回「RPA(Robotic Process　Automation)」についての説明を受けられる予定でしたが調整がつかなかったことです。プログラミング等の専門的な知識がなくても操作が可能であり、処理がルーティン化されている業務を自動化できるシステムですが、これについては後日に持ち越しとなりました。

第20回日本医療マネジメント学会

学術総会報告

看護部長　堀　由美

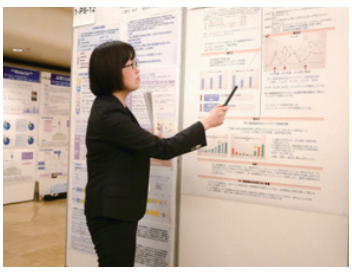
日本医療マネジメント学会は発足して20年となります。

この会は、医療マネジメント手法の開発と普及をはかり、医療の質の向上に寄与することを目的としています。学術総会では、医療の質の向上を求めてクリティカルパスをはじめ、医療連携、医療安全、医療倫理等々、医療の現場における様々な課題に対する取組みについて発表されます。

第20回日本医療マネジメント学会学術総会は、KKR札幌医療センターの磯部病院長を会長として、2018年6月8日、9日の2日間にわたってニトリ文化ホール、ロイトン札幌、ホテルさっぽろ芸文館で行われました。今回は「信頼ー地域に根ざした強いチーム力を培うー」をテーマに、日本全国から医師、看護師、薬剤師、医療スタッフ全般、事務、管理者等、多職種多数の参加がありました。当院からは、西部幸一薬剤師による「SHPT合併の透析患者に対するシナカルセト治療ー処方実態とMBD管理ー」、高橋泉感染看護認定看護師による「病棟におけるシンク周辺の環境改善への取り組み」、沓澤佳代子看護師長による「新人看護職員研修責任者の課題ーインシデント分析からー」の3題を発表しました。また、古家病院長、早瀬安全管理室長、西部薬剤師、そして私は、座長として参加いたしました。教育講演や全国の施設の様々な取り組みを聞き、地域医療介護の連携の重要性や、倫理的な組織文化を育むためにも、患者の意思決定支援への取り組みの大切さなど考える機会となりました。そして病院全体で取り組む課題の確認の場となりました。

6月の爽やかな札幌を全国の方に感じていただきたかったのですが生憎の雨、でも「よさこいソーラン祭り」の賑わいは楽しんでいただけたのではないでしょうか。

次回の日本医療マネジメント学会は2019年7月19日、20日、JCHO中京病院の絹川病院長を会長に、「私たちの働き方改革ー良質で成熟した日本の医療をめざしてー」をテーマに、名古屋国際会議場で開催されます。



JCHO北海道病院 17回目「夏祭り」

介護老人保健施設　管理課　澤田 和通、大腰 直子

当院の「夏祭り」は、平成13年の介護老人保健施設開設以来毎年行われ、今年で17回目迎えました。

毎年開催するにつれ、老健施設利用者だけではなく、病院ご近所の地域住民の皆様の参加者が増え、「夏祭り」会場には小さな子供連れのご家族が多く見られ、少子化を感じさせないほどの賑わいを感じるほどとなりました。

今年は、7月21日（土）11時から開催。今年は全国的に記録的な猛暑が続く中、北海道は雨天が多く、当日も雨天時の場合の対応を考えながら準備を進めました。ところが、「夏祭り」当日は一転して気温30.8℃と7月で初めての真夏日となりました。

会場のあちこちには職員と利用者が協力して制作した装飾が飾られてお祭りの雰囲気を盛り上げていました。例年の屋台にはジンギスカンや焼きそばをはじめ、フランクフルト、チョコバナナ、手削りのかき氷等々、お祭り恒例のメニューが揃い、屋外に設けられた満席状態のテーブル席では皆様楽しそうに談笑しながら食べている様子が見られました。

屋台の他にも子供向けにヨーヨー釣りやスーパーボールすくいなどの縁日コーナーを設け、そちらからは子供たちのにぎやかな歓声が上がっていました。

また、一昨年から引き続き豊平消防署のご協力を得て、消防車・はしご車の展示や防火服の着用体験を行いました。さらに、昨年来場し大好評だった豊平区キャラクター「こりんとめーたん」には今年も招待状を送り、お忙しいなか来場いただきました。ゆるキャラ人気は子供だけに留まらず、高齢者からも大変人気を集めていました。

催し物として今年の目玉は、「2018年YOSAKOIソーラン祭り」でファイナル優秀賞と新人賞をダブル受賞した団体「天嵩 ～AMATA～」による華麗で力強い演舞に来場者も魅了されていました。この他、利用者フロアでは、「Estudio Buena Onda」による情熱と魅惑のキューバダンス、「マイレ本間フラスクール」によるフラダンスショーが行われました。

楽しい時間は瞬く間に過ぎ、15時の終了時刻までにゲーム景品、屋台のお食事の多くは完売。今年も「夏祭り」開催にあたっては、当院・施設職員だけではなく、西野学園札幌リハビリテーション専門学校、北海道科学大学高校、天使大学、大原医療福祉専門学校、北星学園大学、北海学園大学、三幸学園札幌医療秘書福祉専門学校、せいとく介護こども福祉専門学校より総勢65名の学生ボランティアさんの皆様のご協力を得ております。

この場を借りまして参加頂いたボランティアの皆様に感謝申し上げます。

来年も職員一丸となってより良い「夏祭り」になるよう嗜好を凝らして準備していきますので、ぜひ皆様のご来場をお待ちしております。

NST実地修練の報告

栄養管理室　瀧川 博子

当院は、日本静脈経腸栄養学会 NST専門療法士受験に係る臨床実地修練の認定を受けており、院内外より修練生を毎年募集しています。

この認定は、当該施設に学会が定めた認定医が所属していることとされ、古家院長が認定されています。

年々NST活動を行う施設が増えており、当院では専門療法士受験希望者だけでなく、NST専従・専任者を希望する方々の修練もお受けしています。

多くの修練施設では、40時間で履修修了としていますが、当院では「臨床現場ですぐに実践できる」ことを目標にCT・xpの基礎、口腔ケア・ポジショニング演習、症例検討では主治医へ栄養組成を提案できるように指南、さらにどのように栄養状態が改善していくのか、しっかり経過確認できるスケジュールにしています（40～53時間）。

今年度は、院外より8名の応募（看護師5名、管理栄養士1名、薬剤師1名、理学療法士1名）があり6月11日から6日間の集中講義（38時間）を開催。7月以降はNST回診・カンファレンスを通して実際の臨床現場で栄養管理を学んで頂いております。（2～15時間）。

履修修了された皆さんより大変好評を頂いており、栄養療法にさらに興味を持ち、専門療法士を受験される方も多数いらっしゃるほどです。NST専従・専任、院内スタッフを中心とした講師陣で、修練生の皆さんと様々な情報交換を行いながら、楽しく学んで頂けるように病院全体で取り組んでいます。

今後も実地修練受け入れを継続していく予定です。NST活動、NST加算算定の開始などに取り組まれる際は、当院の実地修練（当院ホームページにて募集します）にぜひご参加下さい。また、回診、カンファレンスの見学も随時お受けしています。お気軽にご相談下さい。

左、中央）口腔ケアの実践中。乾燥している口腔内はとても不快に感じます。この不快さとケア後のスッキリ!の両方を体感。
右）骨折等で利き手が使えない場合、通常の食器では食べにくい状況に…。
実際に自助食器を非利き手で体験。「食べられない」を「食べられる」に変える工夫を学びました。

お知らせ

研修会を実施しました。

第49回 札幌南部呼吸器懇話会

平成30年6月13日(水)　当院講堂
参加者／院内10人　院外13人
講演 「MicroCTを用いた肺組織三次元拡大プリントによる末梢病変の観察」
社会医療法人 恵和会 西岡病院　名誉院長　名取　博先生

第49回 リバーサイド消化器懇話会

平成30年7月17日(火)　当院3階講堂
参加者／院内25人　院外10人
講演 「潰瘍性大腸炎診療の現状」
JCHO北海道病院 消化器センター
定岡 邦昌先生　小泉 忠史先生

懇話会のお知らせ

JCHO北海道病院では、地域の先生方との研修・交流の場として講演会を中心とした勉強会を開催しています。

第50回 札幌南部呼吸器懇話会
日時　平成30年10月24日(水)
場所　当院講堂

C型肝炎治療フォーラム
日時　平成30年9月13日(木)
場所　当院講堂

第50回 リバーサイド消化器懇話会
日時　平成30年11月20日(火)
場所　未定(市内ホテル)

豊平がん緩和研究会
日時　平成30年10月3日(水)
場所　当院講堂

豊平肺がん研究会
日時　平成30年10月31日(水)
場所　当院講堂

家族会講話 嚥下障害について
日時　平成30年10月3日(水)
場所　当院付属老健

「なかのしま健康フェア」のお知らせ

平成30年10月4日と5日の2日間で、当院1階グリーンモールにて、「なかのしま健康フェア」を開催致します。血圧・骨密度・血管年齢などの健康測定が無料で出来ます。健康相談や栄養相談、お薬相談、介護福祉相談など、いろいろな相談コーナーもございます。また、外来棟3階講堂にて健康講話を行います。講師による睡眠に関するセミナーを行っていただきます。講話終了後には景品の当たる抽選会も行われます。どなたでも無料でご参加いただけますので、ご興味のある方は、是非ご参加ください。

詳細は地域連携相談室までお問い合わせください。

災害救急指定日

〈平成30年〉8月24日(金)・9月11日(火)・9月22日(土)

※災害救急指定日は、やむを得ぬ事情により変更する場合があります。毎日の新聞紙等でご確認ください。

JCHO北海道病院 各科外来診療担当医師

診療科	午前・午後		月	火	水	木	金
総合診療救急科	午前・午後	内科系	長井 桂	志田 玄貴	前田/馬場 池田 明洋	谷口 菜津子	前田 由起子 大江 真司
		外科系	数井 啓蔵 庄野泰弘/酒井俊彦/岩崎美憲(交代診療)(午後)	正村 裕紀 岩崎 美憲(午後)	正村 裕紀 庄野泰弘/酒井俊彦/岩崎美憲(交代診療)(午後)	数井 啓蔵 酒井 俊彦(午後)	数井 啓蔵 庄野 泰弘(午後)
循環器内科	午前		五十嵐 康己	三神 大世	木村 銀河	木谷 俊介	木村 銀河
	午後(診療1:00～)				木村 銀河		木村 銀河
心臓血管外科	午前				吉田 俊人		
呼吸器内科	午前	1診	秋山 也寸史	原田 敏之	原田 敏之	長井 桂	秋山 也寸史
		2診	眞木 賀奈子	谷口 菜津子	谷口 菜津子	眞木 賀奈子	長井 桂
	午後(予約)(診療1:30～)				秋山 也寸史(予約)		
消化器内科	午前	1診	古家 乾	小泉 忠史	古家 乾	森川 賢一	小泉 忠史
		2診	馬場 英	定岡 邦昌	池田 明洋	定岡 邦昌	馬場 英
		3診	田口 純(予約)[化学療法]	合田 智宏(予約)[化学療法]	竹内 啓(予約)[化学療法]		
	午後(診療2:00～)		坂本 直哉				
腎臓内科	午前		楠 由宏		古川 將太	楠 由宏	
膠原病内科(予約)	午前			浄土 智(予約)		浄土 智(予約)	志田 玄貴(予約)
糖尿病・内分泌内科	午前	1診		柴山 惟		宮野 有希恵	
		2診	牧野 圭祐	國崎 哲	牧野 圭祐	國崎 哲	國崎 哲
	午後(予約)(診療1:30～)	1診					
		2診			牧野 圭祐(予約)		
内科	午前			大江 真司(予約)	竹内 正	大江 真司(予約)	
小児科	午前	1診	澤田 博行	古山 秀人/中島 泰志(交代診療)	大原 夕季	大原 夕季	澤田 博行
		2診	椿 淳子	椿 淳子	椿 淳子	椿 淳子	椿 淳子
	午後(診療1:30～)	一般	岡嶋 覚	岡嶋 覚		大原 夕季	中島 泰志
		慢性外来(予約)	澤田 博行(予約)[慢性・発達]	椿 淳子(予約)[内分泌]	松澤 まき(予約)[喘息・アレルギー]	中島 泰志(予約)[腎臓]	
				古山 秀人(予約)[心臓]	乳児健診(予約)	河野 修(9:00～)(予約)[神経](第1・3週)	古山 秀人(予約)[心臓]
					予防接種[予約なし](受付時間0:30～2:30)		1ヶ月健診(予約)[産婦人科外来]
外科	午前	一般	敦賀 陽介	数井 啓蔵	数井 啓蔵	正村 裕紀	正村 裕紀
		乳がん検診(予約)	乳がん検診(予約)	乳がん検診(予約)	乳がん検診(予約)	乳がん検診(予約)	乳がん検診(予約)
	午後(診療2:00～)	一般					
		乳腺外来(予約)		出張医(予約)(第1・3週)			
整形外科	午前	1診	庄野 泰弘	庄野 泰弘	庄野 泰弘		交代診療(10:00～)
		2診	酒井 俊彦(10:00～)	酒井 俊彦		酒井 俊彦	寺島 理代
		3診	岩崎 美憲		岩崎 美憲	岩崎 美憲	
	午後(不定期)	上肢専門外来(2:00～4:00)				門間 太輔(手、肘、肩)	
泌尿器科	午前	1診	広瀬 崇興/出張医(交代診療)	広瀬 崇興	広瀬 崇興	広瀬 崇興(10:00～)	広瀬 崇興
		2診	佐藤 俊介	佐藤 俊介	佐藤 俊介	佐藤 俊介	佐藤 俊介
	午後(診療1:30～)	1診	広瀬 崇興/出張医(交代診療)			広瀬 崇興(予約)	
産婦人科	午前	1診	山田 俊	佐々木 瑞恵	小田 泰也	小山 貴弘	山田 俊
		2診	小野寺 康全(初診)	小山 貴弘	小野寺 康全	小田 泰也	小山 貴弘(初診)
		3診	山村 満恵	小田 泰也(初診)	山村 満恵(初診)	佐々木 瑞恵(初診)	小野寺 康全
			助産師外来	助産師外来		助産師外来	
	午後(診療2:00～)	1診	山田 俊	佐々木 瑞恵	山村 満恵		
		2診	交代診療(初診)	交代診療(初診)	交代診療(初診)	交代診療(初診)	交代診療(産後)
		3診	助産師外来	助産師外来	助産師外来	助産師外来	
				助産師外来		助産師外来	
眼科	午前	1診	藤尾 直樹	藤尾 直樹	藤尾 直樹	藤尾 直樹	藤尾 直樹
		2診		高橋 智恵	高橋 智恵		高橋 智恵
	午後(診療2:00～)					藤尾 直樹	
耳鼻咽喉科	午前	1診	久保田 圭一	久保田 圭一	金谷 健史[紹介・予約のみ]	久保田 圭一	久保田 圭一
		2診	太田 亮[予約なし]	太田 亮	交代診療	太田 亮	太田 亮
	午後(診療2:00～)	1診		金谷 健史[紹介・予約のみ]			久保田 圭一
		2診		太田 亮			太田 亮
				久保田 圭一			
皮膚科	午前	1診	遠藤 元宏	遠藤 元宏	遠藤 元宏	遠藤 元宏	遠藤 元宏
		2診	小松 彩友香	小松 彩友香	小松 彩友香	小松 彩友香	小松 彩友香
	午後(診療2:00～)	1診	遠藤 元宏	小松 彩友香			遠藤 元宏/小松 彩友香(交代診療)
麻酔科(ペインクリニック・予約)	午前		実藤 洋一(予約)		神田 知枝(予約)		笠井 裕子(予約)
放射線診断科	午前		杉浦 充			杉浦 充	
禁煙外来(予約)	午後(診療1:30～)		長井 桂(予約)			原田 敏之(予約)	
受付時間	《午前の受付時間》8:00～11:00(診療開始8:45～)				《午後の受付時間》0:30～3:30(診療開始は各診療科欄に記載)		

担当医師・診療時間について変更になる場合もございます。

予約変更直通TEL：011-831-5489(予約変更　平日 午前9:00～午後4:00)

JCHO北海道病院

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18
TEL 011-831-5151(病院代表)
URL http://hokkaido.jcho.go.jp
https://www.facebook.com/jchohok
〈医療機関専用：地域連携相談室直通〉
TEL 0120-515-830　FAX 011-815-1005

↑QRコード読込で病院ホームページへ

日本医療機能評価機構 認定第 JC315 号